

精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名：福間病院精神科専門研修プログラム
- プログラム担当者氏名：鈴木 宗幸
住 所：〒 811-3295 福岡県福津市花見が浜 1 丁目 5 番 1 号
電話番号：0940 - 42 - 0145
F A X：0940 - 42 - 7174
E-mail：ikyoku@fukuma-hp.or.jp
- 専攻医の募集人数：通常プログラム（ 4 ）人 **連携（地域研修）プログラム（ 1 ）人**
- 応募方法：
書類を下記宛先に簡易書留で郵送してください。封筒には「専攻医応募書類在中」と記載してください。
宛先：〒 811 - 3295 福岡県福津市花見が浜 1 丁目 5 番 1 号
福間病院 医局
TEL：0940 - 42 - 0145
FAX：0940 - 42 - 7174
担当者：鈴木 宗幸（臨床研修センター長）
- 採用判定方法：
書類審査を経た後、面接を行います。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

福間病院は1955年に開設された500床の民間精神科病院であり、緑豊かな3万坪の敷地に入院、デイケア、デイナイトケア、外来部門を展開し、地域社会に根ざした精神科医療を実践しています。日本でのデイケア施設認定第1号であり、さらに援護寮（当時）も第1号認定を受けました。また、1983年からは、民間精神科病院においては日本で2つしかなかった臨床研修病院として研修医教育に携わってきました。2004年に卒後臨床研修制度が必修化された際、当院は協力型臨床研修病院として多くの病院と連携して、初期臨床研修医に対する研修指導を続け、2006年からは、精神科専門医並びに精神保健指定医の資格取得を目的とした「後期臨床研修プログラム」を運用しておりました。2018年度より、日本専門医機構認定精神科専門医制度に対応するため、新たな精神科専門医養成プログラムを開設し、現在まで運用しております。

当プログラムではまずは基幹病院である福間病院において精神科救急病棟、療養病棟、外来、デイケア/デイナイトケアにおいて数多くの症例を担当し、実践を通して精神科臨床医としての基礎力を養います。福岡県内の連携施設として、福岡大学病院、不知火病院、倉光病院、香椎療養所の4つがあります。県外の連携施設として三愛病院（北海道）、山口県立こころの医療センター、道ノ尾病院（長崎県）があり、連携プログラムにも対応しています。連携施設はそれぞれリエゾン、依存症専門治療、児童思春期精神科、認知症の幅広い地域医療、医療観察法専門入院等の多種多様なサブスペシャリティをカバーしており、専攻医の興味と関心に応じてローテートを組み合わせることが出来ます。民間精神科病院・大学病院・公立精神科医療機関からなる研修施設群をローテートして研修することにより、実地の精神科医療現場で働くために必要な幅広い臨床能力を備えた精神科医を養成するプログラムです。単に疾病理解だけではなく、病棟運営や各種委員会参加（安全管理委員会、院内感染対策委員会、NST委員会等）を含め、幅の広い研鑽を積む体制を整えています。福間病院医局同門の医師は現在400人を超え、様々な場で活躍中です。真摯に精神科専門医を目指す方なら、喜んで仲間として迎えます。是非、当院での精神科専攻医生活を考慮してください。

○ 研修基幹施設：福間病院

精神科専門医研修施設、協力型臨床研修病院として地域における精神医学教育・研修の役割を担ってきました。精神科臨床の実績も多く、統合失調症患者の開放療法にも早くから取り組んできた病院です。精神科救急病棟、身体合併症患者を治療するための病棟を2017年に新築し、運用を開始しております。長期入院患者の療養病棟における研修、地域における精神科中核病院としての新患外来研修、精神科リハビリテーションの現場であるデイケア/デイナイトケア研修と併せて、精神科医療全般にわたる知識や技能を習得するための多くの症例を体験することができます。

○ 連携施設 1：福岡大学病院

伝統的に精神分析、臨床精神薬理、デイケアによる社会復帰活動に取り組むなど臨床が充実しています。本プログラムでは精神科専門医としての知識や態度を習得すること、すなわち患者の人権の尊重、生物-心理-社会-倫理的な幅広い知識とバランスのとれた態度や技能の習得が可能となるよう、研修を行う予定です。

○ 連携施設 2：不知火病院

うつ病専門治療病棟、急性期の重症精神疾患の治療からグループホーム等を含めたリハビリテーションシステムまで総合的な精神疾患治療を実施しています。特に社会的にも重要な問題である勤労者のうつ病治療に関しては、1989年にうつ病専門治療病棟「ストレスケアセンター・海の病棟」を全国に先駆けて開設し、日本のうつ病治療の中でも、一歩踏み込んだ治療を実践しています。

○ 連携施設 3：三愛病院 **連携プログラムにも対応**

北海道登別市にある三愛病院は、診療圏が室蘭市まで広がり、人口構成などの違いもあることから、福岡県の医療圏における診療とは異なった臨床体験を積むことができます。病院は精神科一般病棟、精神療養病棟、認知症治療病棟、高齢者身体合併症治療病棟、さらに療養病棟から構成されています。認知症の初診、診断、周辺症状への対応、入院治療、法人内の施設での入所生活への対応、在宅生活を支える訪問看護プログラム、デイサービスなど、地域における認知症診療の全てを包括的に体験することができます。

○ 連携施設 4：倉光病院

アルコール依存症および病的賭博の入院治療と、その後の生活の支援を継続的に行っています。アルコール／病的賭博・リハビリテーション／プログラム(ARP)やデイケアでのプログラム、退院後の訪問看護や家族の支援を体系化するためのアディクション(依存症)家族教室運営等を通じ、本人の意思を尊重しつつ家族も支援を行っていくプログラムを治療者の側から体験してもらうこととなります。

○ 連携施設 5：香椎療養所

福岡病院同門の精神科専門医指導医、日本児童青年精神医学会認定医が勤務しています。児童、思春期外来で多くの新患、再診を経験し、入院治療も経験することができます。

○ 連携施設 6：山口県立こころの医療センター **連携プログラムにも対応**

山口県において公立の精神科医療機関として精神科救急入院棟(2病棟、81床)

を有し、県精神科救急情報センターを運用しており、県全域の精神科救急医療体制の向上に貢献しています。認知症疾患医療センター、高次脳機能障害支援センター、児童思春期の臨床心理センター、医療観察法病棟（8床）を通じた専門医療の提供を特色としており、よって認知症（若年性を含む）や高次脳機能障害、児童・思春期症例、触法精神障害者、治療抵抗性精神障害への専門的治療（クロザピン、m-ECT）を幅広く経験することができます。

○ 連携施設 7：道ノ尾病院 **連携プログラムにも対応**

長崎市内において 13 病棟(急性期病棟 1、一般病棟 3、合併症病棟 2、認知症病棟 2、療養病棟 5)785 床、複数のデイケア（大規模 1、小規模 1、デイナイトケア 1）を有し、長年、地域に根差した精神科医療を行っています。統合失調症、感情障害、認知症、神経症圏、ADHD など発達障害、アルコール依存症など精神疾患全般を治療対象としており、幅広い疾患を経験することができます。専門外来として、認知症外来、ADHD 外来を行っており、治療抵抗性精神障害への専門的治療（クロザピン、m-ECT）も経験することができます。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数：45 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1312	878
F1	493	317
F2	2127	1829
F3	2103	995
F4 F50	2033	264
F4 F7 F8 F9 F50	926	107
F6	141	27
その他	1975	200

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：福間病院
- ・施設形態：民間施設
- ・院長名：藤永 拓朗
- ・プログラム統括責任者氏名：鈴木 宗幸
- ・指導責任者氏名：藤永 拓朗
- ・指導医人数：(12) 人
- ・精神科病床数：(500) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	25	19
F1	18	9
F2	169	595
F3	220	140
F4 F50	272	22
F4 F7 F8 F9 F50	65	16
F6	8	3
その他	229	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

福間病院は 1955 年に開設された 500 床の民間精神科病院であり、緑豊かな約三万坪の敷地に建物が点在する療養環境を持っている。統合失調症症例では措置入院、医療保護入院などの非自発入院例や行動制限症例が多く、当該症例に関する経験を充分得ることができる。さらに、家族心理教育や社会復帰部門の作業療法、デイケア、デイナイトケアなどが院内に併設されていることから、外来受診から入院治療を経て、社会復帰に至るまでの一連の治療を自ら体験し、精神科医としての能力を涵養することが可能である。また、難治性統合失調症患者に対してクロザピン

治療や m-ECT を行っている。

専攻医はまず、基幹施設において精神科面接、診断、治療、チーム医療の技術を、①精神科急性期病棟②外来（新患、再診）③療養病棟④デイケア/デイナイトケアの4つのフィールドにおいて、数多くの症例を担当して身に付ける。臨床研修センターを完備し、数多くの指導医、アドバイザーによる教育プログラム、指導体制を活用して手厚い指導を行う。

併設施設等：応急指定病院、精神科救急輪番、精神救急病棟、精神療養病棟、精神科作業療法、精神科デイケア、精神科デイナイトケア、訪問看護ステーション、就労支援センター、地域活動支援センター・指定相談支援事業所、グループホーム、居宅介護支援事業所

B 研修連携施設

① 施設名：福岡大学病院

- ・施設形態：大学病院
- ・院長名：岩崎 昭憲
- ・指導責任者氏名：川寄弘詔
- ・指導医人数：（ 7 ）人
- ・精神科病床数：（ 60 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	153	18
F1	7	9
F2	77	48
F3	103	53
F4 F50	216	56
F4 F7 F8 F9 F50	52	41
F6	39	1
その他	149	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

大学病院における精神神経科の役割を果たすために、身体合併症患者のリエゾンコンサルテーション、緩和ケアチームや認知疾患センターへの参画、救命救急センターと協力した自殺企図者への介入、産婦人科や小児科と共同した周産期母子、小児や児童思春期（虐待児とその家族、発達障害、ADHD など）への対応など幅広い臨床を行っており、様々な経験を積むことができる。

専攻医は病棟医として入院患者を受け持ち、精神疾患の鑑別診断、精神療法や薬物療法などの治療方針について指導をうける。各々の興味のある分野があればより重点的にその領域に関わることができる。また、研究機関でもあるため、研究や学会発表についても指導をうけることが可能である。

② 施設名：不知火病院

- ・施設形態：民間施設
- ・院長名：松下 満彦
- ・指導責任者氏名：松下 満彦
- ・指導医人数：（ 6 ）人
- ・精神科病床数：（ 219 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	12	5
F1	3	4
F2	74	83
F3	398	337
F4 F50	105	17
F4 F7 F8 F9 F50	6	2
F6	5	1
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

平成元年に、日本で初めてうつ病専門病棟（ストレス専門病棟）を開設した単科

精神科病院である。近年、メンタルヘルスやうつ病への関心が高まっており、今後社会的要請が強まると考えられる。2000年には日本ストレスケア病棟研究会を立ち上げ、理事長の徳永雄一郎が以来会長の職にある。更に、日本の海外進出に伴い2008年より、日本人勤労者を対象として、中国上海市でも診療に当たっている。

外来治療においては、従来型の統合失調症の地域化にともなうデイケアに加え、勤労者うつ病を対象とした復職支援プログラムを入院外来共に実施している。このような状況のため、外来新患の約8割がうつ病圏となっている。

教育にも力を注いでおり、上級医師によるコンサルタントの他、各職種共に学会での発表を重視している。ちなみに平均の学会発表数は医師、看護も約20～30題となっている。うつ病を中心とした海の病棟は、精神科急性期治療病棟であり、平成26年7月より医師配置加算を算定している。

統合失調症は長期入院の慢性期、初発の急性期症例等多数ある。医療保護入院などの非自発入院や行動制限を必要とする症例も多い。

地域支援サービスを病院を中心として展開し、積極的に退院支援、地域連携活動を行っており、地域社会と密着した精神医療を実践している。

精神科医としての基本的な素養をもとにし、一人の精神科医として外来・入院から退院、さらに退院後の生活支援に至るまで責任を持って対応するための能力を身につけることができる。

併施設等：精神急性期治療病棟、精神療養病棟、精神科作業療法、精神科デイケア・デイナイトケア・ショートケア、就労支援（リワーク）、共同住居、精神科救急輪番

③ 施設名：三愛病院 **連携プログラムにも対応**

- ・施設形態：民間施設
- ・院長名：千葉泰二
- ・指導責任者氏名：千葉泰二
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 460 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	112	310
F1	12	52
F2	19	215

F3	71	96
F4 F50	53	27
F4 F7 F8 F9 F50	16	17
F6	3	2
その他	444	70

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

西胆振医療圏に存在し、外来は精神科、内科、循環器内科、消化器科、心療内科、皮膚科、眼科、泌尿器科、歯科口腔外科を標榜し、専門外来として、「認知症外来（物忘れ外来、平成 22 年 10 月認知症疾患医療センター指定）」、「漢方外来」などを有する。高齢者の増加もあり、精神科作業療法、身障作業療法、理学療法、言語聴覚療法を実践している。病棟は精神科一般病棟（急性期）、精神療養病棟、認知症治療病棟、高齢者身体合併症治療病棟を精神科病床として運用している。

併設施設等：（精神障害者・地域生活支援部門）精神科デイケア、障害者グループホーム、就労支援センター、室蘭市相談支援センター、登別市相談支援センター、（高齢者・介護サービス部門）特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、地域包括支援センター、認知症高齢者グループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所

④ 施設名：倉光病院

- ・施設形態：民間施設
- ・院長名：倉光かすみ
- ・指導責任者氏名：倉光かすみ
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 130 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	95	55
F1	193	114
F2	123	73

F3	67	26
F4 F50	0	0
F4 F7 F8 F9 F50	2	8
F6	5	5
その他	54	7

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

外来・入院共にアルコール、病的賭博などの依存症疾患が多く割合を占める。入院治療プログラム、デイケアでの外来プログラム、退院後の生活支援としてグループホームや訪問看護を実施している。また、高齢者サポートとして、認知症をはじめとする高齢者の病態への治療にも取り組み、認知症デイケアや共同住宅施設、関連施設を運営する社会福祉法人と共に地域に根ざした病院運営に取り組んでいる。治験に積極的に取り組んでいることも当院の特徴の一つである。

併設施設等：デイケア、グループホーム（デイケアとグループホームは依存症、統合失調症、認知症等に対応するため分化）、宅老所、就労移行支援事業所、身体障がい者療護施設、地域密着型特別養護老人ホーム、通所介護デイサービス、共同生活介護グループホーム

⑤ 施設名：香椎療養所

- ・施設形態：民間施設
- ・院長名：早瀬雅樹
- ・指導責任者氏名：関田敦子
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 180 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	160	73
F1	3	13
F2	454	175

F3	139	44
F4 F50	472	60
F4 F7 F8 F9 F50	536	20
F6	38	1
その他	240	37

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

統合失調症、感情障害の外来・入院治療の他、児童思春期の健康相談・外来診療を行い、地域ではその名を知られている。外来診療では、一般的な外来診療の他に訪問診療も行っている。

併設施設等：デイナイトケア（デイケア、ナイトケア）、訪問看護、精神科救急輪番

⑥ 施設名：山口県立こころの医療センター 連携プログラムにも対応

- ・施設形態：公的（地方独立行政法人）単科精神科病院
- ・院長名：兼行 浩史
- ・指導責任者氏名：兼行 浩史
- ・指導医人数：（ 6 ）人
- ・精神科病床数：（ 180 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	177	55
F1	47	34
F2	133	131
F3	159	104
F4 F50	287	43
F4 F7 F8 F9 F50	246	3
F6	10	5
その他	186	28

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当事者のご家族に質の高い医療を提供することを最優先とし、多職種による専門治療プログラムの充実や医療安全の推進をはかっている。特徴としては、2つの精神科救急入院棟（計81床）を運用し、急性期治療の体制を強化するとともに、県精神科救急情報センターにて県全域の精神科救急医療体制の向上に努めている。また、児童・思春期、認知症、高次脳機能障害、依存症等の専門外来を充実し、臨床心理センターや認知症疾患医療センター、高次脳機能障害支援センターを中心に関係機関との連携をすすめている。8床の医療観察法専門入院棟も運用しており、対象者の社会復帰等を目指している。

併設施設等：臨床心理センター、認知症疾患医療センター、高次脳機能障害支援センター、デイケア

⑦ 施設名：道ノ尾病院 **連携プログラムにも対応**

- ・施設形態：民間施設
- ・院長名：松本 一隆
- ・指導責任者氏名：畑田 けい子
- ・指導医人数：（8）人
- ・精神科病床数：（785）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数	入院患者数
F0	578	343
F1	210	82
F2	1078	509
F3	946	195
F4 F50	628	39
F4 F7 F8 F9 F50 (児童思春期)	3	0
F6	33	9
その他	673	55

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

長崎市に位置し13病棟(急性期病棟1、一般病棟3、合併症病棟2、認知症病棟2、療養病棟5)785床を有する。デイケアは大規模1、小規模1、デイナイトケアを行っている。統合失調症、感情障害、認知症、神経症圏、ADHDなど発達障害、アルコール依存症など精神疾患全般を治療対象としており、幅広い疾患を経験することができる。

平成 26 年からクロザピンによる薬物療法を導入し、今年度からは修正型無痙攣性通電治療（mECT）を導入予定である。専門外来として、認知症外来、ADHD 外来を行っている。デイケアは大規模 1、小規模 1、デイナイトケアで、リワークプログラム、SST、認知行動療法を行っている。また心神喪失者医療観察法に基づく指定通院医療機関でもある。

併施設等：特別養護老人ホーム、宿泊型自立訓練事業所、就労継続支援 B 型事業所

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

民間精神科病院、大学病院、公的精神科病院が連携して行う精神科専門医養成プログラムである。精神科専門医として実践的な精神科医療を行う能力を涵養することを目的としている。その目的のため、地域で精神科医療を担っている研修施設群が連携し、そこを専攻医がローテートする。地域精神医療に関係する様々なサービスに参加し、実践的な経験を会得する。精神科救急や措置入院症例などへの対応を通じて、精神科臨床の基礎を学ぶと同時に、医療に関する諸法規（特に精神保健福祉法、他）に関する知識を現場で学習していく。また、慢性期統合失調症患者で入院期間が長期に入院となった症例の中には悪性腫瘍などの身体疾患を合併し、その治療が必須となる症例も少なくない。

精神科医療の現場における諸問題を倫理的、法的にも考察する習慣を養い、問題解決に向けて、合理的な推論を行う能力を身につける。この能力の獲得ならびにリエゾンコンサルテーション症例、特殊な疾患の経験を積むことを目的として、大学病院における研修を行うことも可能である。研修一年毎に年間の研修成果を発表し、最終年度には学会発表もしくは論文（症例報告含む）作成を行う予定である。

専攻医は精神科専門医制度の専攻医研修マニュアルにしたがい専門知識を習得する。

研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1. 患者及び家族との面接技法、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法、精神科リハビリテーション、及び地域精神医療・保健・福祉、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 医の倫理、12. 安全管理・感染対策。年次毎の到達目標は以下の通り。

到達目標

1 年目：基幹病院において精神科面接、診断、治療、チーム医療の技術を、①精神科急性期病棟②外来（新患、再診）③療養病棟④デイケア/デイナイトケアの 4 つのフィールドにおいて、数多くの症例を担当して身に付ける。指導医、アドバイザーによる病棟回診、直接指導、スーパーバイズ、症例検討会を通して手厚い指導を行

う。初期臨床研修医を指導することで自らも学ぶ。指導医と一緒に統合失調症、気分障害、神経症圏内の精神疾患、発達障がい、思春期症例などを担当し、コミュニケーションの基本、面接技術、症状評価、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法を学び、各種精神症状を理解し、経験する。とくに面接によって有用な情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神科救急に従事して対応法を、主治医として責任を持って診療しつつ学ぶ。院内勉強会、症例検討会、抄読会等で発表する。

2年目：1年次の研修を続行し、能力に応じて外来新患を直接担当する。精神科救急病棟のチーム運営にも携わる。指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の技能を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。リエゾンコンサルテーション症例について経験する。また精神科救急に従事し、経験を重ねる。後輩の専攻医を指導することで自らも学ぶ。

連携プログラムを選択した専攻医は2年目の後半から、三愛病院、山口県立こころの医療センターもしくは道ノ尾病院にて、地域医療、公立病院の果たす精神科医療、精神科の各種サブスペシャリティ等について経験し、学びを深める。

3年目：連携施設において更に専門的な分野について研修を積む。依存症、児童思春期精神科、認知症などのサブスペシャリティにおいて幅広く経験を積むことが望ましい。指導医から自立して診療し、チーム医療においてはリーダーとしての素養を身に付ける。症例報告を中心とした臨床研究などを日本精神神経学会ないしは所定の関連学会で、第一演者として1回以上発表する。（3年目研修に関しては専攻医の研修達成度、本人の興味関心が存在する分野を鑑みて研修施設を決定する。研修施設は半年単位でローテートを組み合わせることも可能）

連携プログラムを選択した専攻医は三愛病院、山口県立こころの医療センターもしくは道ノ尾病院にて、地域医療、公立病院の果たす精神科医療、精神科の各種サブスペシャリティ等について経験し、学びを深める。半年単位でローテートを組み合わせることも可能。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

医療現場での各職種専門家との交流を通じ、社会人として必要な常識ある態度や素養を体得していく。コンサルテーションリエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任感や社会性、倫理観についても学んでいく。また、医師としての品格を保つべく日常生活でも配慮する。

② 学問的姿勢

専攻医にとどまらず、凡そ医師は医学・医療の進歩発展に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。専攻医としての研修期間を通じて担当した症例については可能な限り院内の集談会（症例発表会）で発表・紹介することを基本とし、問題点については文献調査を行う習慣を身につける。最終年度までには少なくとも学会発表1回もしくは論文（症例報告含む）投稿を行う。

③ コアコンピテンシーの習得

日本精神神経学会や関連学会の学術集会や各種研修会、セミナー等に参加して医療安全、感染管理、医療倫理、医師として身につけるべき態度などについて履修し、医師としてのコアコンピテンシーを高めていく。医療安全や感染管理については委員会に参加し、対応方法について実務を通じて学んでいく。精神科医特有のコアコンピテンシーとして、精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーションなどの診療能力を習得する。チーム医療の一環として初期臨床研修医への指導・助言を行うことを求められる場合には真摯に対応する。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

経験した症例について特に興味関心があったものについて、九州精神神経学会などで発表を行い、また学会誌などへの投稿を行う。日本精神神経学会には可能な限り参加して、最新の学術動向について理解を深める。

⑤ 自己学習

基幹研修施設などに設置してある図書室の雑誌、図書、ビデオなどを用いて自己学習を行う。最新情報の検索にはインターネットを用いることが可能である。

4) ローテーションモデル

専攻医研修プログラムに沿って各施設を次のようにローテーションし、年次ごとの学習目標に従った研修を行う。

初年度：福岡病院

2年度：福岡病院・研修連携施設から1施設を選択。**連携プログラムの場合、年度の後半から三愛病院、山口県立こころの医療センターもしくは道ノ尾病院を選択。**

3年度：研修連携施設から1～2施設を選択。**連携プログラムの場合、三愛病院、山口県立こころの医療センターもしくは道ノ尾病院を選択（半年毎でローテートも可能）。**

※通常プログラムにおいても日本専門医機構の定める地域貢献率20%を満たす必要あり

り。

初年度は基本的には福岡病院救急病棟、療養病棟、外来、デイケア/デイナイトケアを主な研修病棟としてコアコンピテンシーの習得など精神科医師としての基礎的な素養を身につける。患者および家族との面接技法、疾患の概念と病態理解、診断と治療計画、補助診断、薬物・身体療法、精神療法、心理社会療法、リハビリテーション、関連法規に関する基礎知識を学習する。

2年度は福岡病院において研修を続行する。統合失調症、気分障害、精神作用物質による精神行動障害などそれぞれの疾患が有する特徴を理解・把握して、個別の対応を学ぶ。リエゾンコンサルテーションについて特に関心を持つ専攻医はこの年度から福岡大学病院、山口県立こころの医療センター等における研修を考慮する。連携プログラムを選択した専攻医は年度の後半から三愛病院にて認知症の包括的な地域医療を経験するか、山口県立こころの医療センターにて公立精神科病院の担う幅広い役割を、各サブスペシャリティに特化した部門にて経験するか、道ノ尾病院にて認知症、依存症、発達障害などを含めた広範な精神疾患の地域医療を経験する。

3年度は専攻医の研修達成度並びに興味関心に応じて研修施設（1～2施設）を決定する。各施設において指導医のスーパーバイズを受けながら入院患者の主治医となり、責任を持った医療を遂行する能力を学ぶ。地域社会で生活する統合失調症患者、認知症患者に対する支援を訪問看護、訪問診療を通じて体験する。連携プログラムを選択した専攻医は三愛病院にて認知症の包括的な地域医療を経験するか、山口県立こころの医療センターにて公立精神科病院の担う幅広い役割を、各サブスペシャリティに特化した部門にて経験するか、道ノ尾病院にて認知症、依存症、発達障害などを含めた広範な精神疾患の地域医療を経験する。半年毎に両方の施設をローテートすることも可能である。

5) 研修の週間・年間計画

別紙参照

4. 研修プログラム管理体制について

・研修プログラム管理委員会

研修プログラム管理委員会は以下の委員で構成する。

研修プログラム管理委員会は専攻医の研修状況ならびにプログラムの運用状況を確認し、問題点が認められた場合にはプログラム統括責任者に改善案を求める。

- 委員長 医師：藤永拓朗
- 医師：鈴木宗幸
- 医師：川寄弘詔
- 医師：松下満彦

- 医師：千葉泰二
- 医師：倉光かすみ
- 医師：早瀬雅樹
- 医師：兼行浩史
- 医師：畑田けい子
- 看護師：戸田耕一
- 作業療法士：田口真理

・プログラム統括責任者
鈴木 宗幸

・連携施設における委員会組織

研修プログラム連携施設担当者と専門研修指導医で委員会を組織し、個々の専攻医の研修状況に関しプログラム統括責任者と連携をとりつつ管理・改善を行う。

5. 評価について

1) 評価体制

専攻医に対する指導内容は、統一された専門研修記録簿（以下「研修記録簿」）に時系列で記載して、専攻医と情報を共有するとともに、プログラム管理委員会（プログラム統括責任者を含む）で定期的に評価し、改善を行う（指導医に対し、助言・指導を行う場合もある）。

2) 評価時期と評価方法

- ・3か月ごとにカリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、プログラム統括責任者を通じ、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6か月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。また、その結果を統括責任者に提出する。
- ・専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修実績管理システム」に研修実績を登録し、指導医による形成的評価、フィードバックをうける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年一回実施する。

福間病院において専攻医の研修履歴（研修施設、研修期間、担当した研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プ

プログラムに対する評価も保管する（この評価はプログラム管理委員会以外には専攻医としての研修期間後に公開され、専攻医に不利益を生じないように配慮する）。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル（別紙）
- 指導医マニュアル（別紙）
- ・ 専攻医研修実績記録

「研修実績管理システム」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの研修達成目標に従って、各分野の形成的自己評価を自発的に行うことが要求される。研修を終了しようとする年度末には総括的評価により評価が実施される。

- ・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自らの達成度評価を行い、指導医も形成的評価を行い記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの研修目標に従って、各分野の形成的評価を行い評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックを行い、その内容と結果について記録し、翌年度の研修に役立つよう資料化する。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

研修基幹施設の就業規則に基づき勤務時間あるいは休日、有給休暇等を付与する。

【勤務日数】 週5日（原則：月曜日～金曜日）

【勤務時間】 8:30～17:20（休憩50分）

【当直】 17:00～翌9:00

【休日】 ①日曜日および毎週1日（通常土曜日、週休2日）

②国民の祝日・休日

③福間病院開院記念日（3月10日）

④年末年始（12月31日～1月3日）

⑤リフレッシュ休暇（年間5日）

⑥その他、医療法人恵愛会が指定した日

⑦産前産後休暇、育児休業、介護休業など就業規則に規定されたものについては請求に応じ付与できる。

研修連携施設での研修中はその施設の規則に基づく労務管理が実施される。

2) 専攻医の心身の健康管理

労働安全衛生法に基づいて一年に1回の健康診断を実施する。

検診の内容は別途規定する。

産業医による心身の健康管理を実施し、異常の早期発見に努める。

3) プログラムの改善・改良

研修施設群内における連携会議を定期的に行い、問題点の抽出と改善を行う。

年度末に専攻医からの意見や評価を求め、それについて研修プログラム管理委員会で検討し、次年度のプログラムへの反映を行う。

4) FDの計画・実施

毎年研修指導医（最低1名）には日本専門医機構が実施しているコーチング、フィードバック技法、振り返りの促しなどの技法を受講させる。

研修基幹施設のプログラム統括責任者は、研修施設群の専門研修指導医に対して講習会の修了やFDへの参加記録などについて管理する。